

旬を味わい、伝統・文化を感じる旅 ～ホ・ヨンマン画伯による石川県取材～

ソウル事務所

クリアソウルでは、韓国の漫画家ホ・ヨンマン画伯を日本の各地に招き、取材していただいたうえで、韓国でそれを広く紹介する事業を行っています。

今回は、2011 年 11 月 13 日（日）～16 日（水）の日程で実施した石川県取材の様子を報告します。

1 「食」の魅力

石川県では、最初に白山市でそばをいただきました。そばの名店が並ぶ地域だけあり、そば好きのホ・ヨンマン画伯もその味に惚れ込み、特盛を完食するほどでした。

また、今が旬の「加能ガニ」をはじめ、「加賀野菜」や「能登野菜」など地元の恵みを使用した懐石料理を味わいました。ホ画伯は、料理が出されるたびに箸が進み、「素材の魅力を引き出す料理の技が素晴らしい」と大変満足していました。

そのほか、奥能登産の新鮮な食材をふんだんに使用した「能登丼」、金沢の郷土料理で鶏肉と野菜の入った煮物「治部煮（じぶに）」など石川県の食の魅力を取材しました。



今が旬の加能ガニ



新鮮な魚介類で彩られた能登丼

2 「伝統・文化」の魅力

金沢市では、水戸偕楽園、岡山後楽園と並ぶ日本三名園「兼六園」を取材し、ホ画伯は雪から樹木を守るため行われる「雪吊り」に関心を持ち、熱心にスケッチしていました。

また、「金沢城公園」では復元された菱櫓（ひしやぐら）や五十間長屋（ごじゅっけんながや）などを見ながら、気になる点があるたびにガイドの方に質問していました。

「ひがし茶屋街」では、石川県が全国一の生産量を誇る金箔の箸への貼付け体験を行いました。金箔は少し息がかかっただけでもめくれ上がるほど繊細で、ホ画伯は慎重に扱いながら綺麗に貼り付けることができ、とても喜んでいました。



兼六園の雪吊りをスケッチするホ画伯



金沢城公園のシンボル（左から）菱櫓、
五十間長屋、橋爪門続櫓



箸への金箔貼付け体験をする木画伯

そのほか、金沢市で最も長い歴史を持つ酒蔵「福光屋」や、加賀藩時代の武士の屋敷跡である「長町武家屋敷」を取材しました。

輪島市では、1,000 年以上の昔から続く「輪島の朝市」を取材し、木画伯は露店で扱われている魚や野菜などの特産品を興味深く見ていました。

また、「輪島工房長屋」では、輪島塗の歴史や作業工程の説明をしていただいたほか、職員の方の勧めで、漆のパネルに沈金^{ちんきん}で絵付けをする体験を行いました。

「キリコ会館」では、能登地方の祭礼に担ぎ出されるキリコ（御神灯）の展示を見て、木画伯は「能登地方ではなぜこんなに祭りが多いのか」と、祭りに興味を示していました。

そのほか、羽咋（はくい）市では、日本で唯一、波打ち際まで走行できる砂浜「千里浜ドライブウェイ」や、縁結びで有名な「氣多大社^{けた}」を取材しました。



約 200 軒の露店が並ぶ輪島の朝市



キリコの展示の様子



縁結びで有名な氣多大社

3 所感

石川県には豊かな自然の恵みを活かした「食」の魅力、各地で受け継がれている祭礼や加賀藩の時代に築かれた城や庭園、街並みなどの「伝統・文化」の魅力があり、どれも印象的で忘れることができません。木画伯が「急いで巡るのは旅ではない、ゆっくり巡るのが旅なのだ。」と述べたとおり、石川県で過ごした時間はとてもゆっくりと流れていたように感じました。

今回の石川県取材にあたり、多大なるご協力をいただきました石川県観光交流局交流政策課様、また訪問時にご丁寧にご案内をいただきました各取材先の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

今回の取材で感じた石川県の魅力をこれから韓国内に発信していき、韓国人観光客の誘致に努めてまいります。

(松崎所長補佐 愛媛県松山市派遣)